

学校のちよっといい話 20

「学び続ける教師として」

(前我孫子市立我孫子第二小学校) 校長 鍵山 智子

私は、三十八年間の教員生活をこの三月に終えた。小中学校の多感な時期、子どもたちは、学習や生活等、様々な場面で、自らのよさや他者のよさに気づき、認め合い、励ましあい個々に成長を遂げる。人間関係作りが難しいと言われる時代にあっても、こうした姿を育める「学校」という場に職を得たことに改めて感謝する日々であった。

今から八年前、「鉄の女」と揶揄されていた私は、自身の体を過信し、突然の大病に見舞われた。死に直面してみて、改めて「健康であることの尊さ」を思い知らされた。入院中、「また子どもたちと触れ合う時間が持てるだろうか、もし叶うのなら、もう一度学びの場に戻りたい」。幸い、主治医や周囲の方々に恵まれ、仕事に復帰できた。何物にも代えがたい貴重な時間となった。

初任の頃から、休みがちな子

やその保護者に出会うことが多くあった。その出会いにより私自身が成長できた。今思えば「直感力と経験」だけで関わっていたように感じられ、反省しきりである。「もっと専門的に学んでいたら?」「もっと寄り添える手立てがあつたのでは?」と考える場面もあつた。そこで心機一転、還暦をリセットの時期とし、「教職大学院で学ぼう」という目標をたてた。

四月から、私は、「教える立場と学び手の立場」の両方が経験できる有意義な時間を謳歌している。

現代は、新型コロナウイルスの対応はじめ、常に新たな壁に立ち向かわなければならぬ予測困難な時代である。この時代を生き抜く力を育てるためにも、先輩方から授けてもらった知恵を糧に、私の好きな言葉「あい(愛)に感謝し、いのち(命)に感謝し、うん(運)に感謝し、えん(縁)に感謝し、おん(恩)に感謝する」…頭文字をとり「あいいうえお開運法」という…をモ

ットーに、私自身も、今置かれている場所で、次世代を担う人たちの成長を見守り、新たな年輪を積み重ねていきたい。

「先生に追い風送る」「道徳教育実践シリーズ」頒布のご紹介

「何のために教師になったのか」「教師としての原点は」「チーム学校はどうやって」「各種講話」などに広くご活用ください。

◆一冊頒布百二十円(税込・送料別)

ちよっとご紹介

シリーズ一

『教師と子供の心をつなぐ 学校のちよっといい話 先生、ありがとう』

私は前任校で学級崩壊を起こしてしまいました。ですから、担任をする自信がありません…

シリーズ二

『キャリアコンサルタントの「道徳的キャリア教育」実践記録 教育現場で出会った凄い生徒と熱い教師』

私は「民間人校長」として高等学校で七年間、中学校で二年間と計九年間歩んできました…

シリーズ三

『失敗、難題に取り組む先生の応援書 がんばる先生奮闘記』

以前勤務していた幼稚園型認定こども園は、三歳から五歳、全園児で十名あまりの小さな園でした…

◆編集後記◆

◎この度、紙面に大きく写真を取り入れて、それも笑顔を多くしてみました。コロナ禍を谷とみるか山とみるかで人の意識は変わります。できるならば山とみて乗り越えてはどうでしょうか。

◎そんな学校の先生方にできることは何かと考えながら構成してみました。記事の内容は勿論ですが、QRコードで動画もご覧いただけます。さらに、メルマガ、サタモラの配信をお楽しみに。

◎見捨てない!見過ごさない!心をモラロジー(Morality)、「道徳」を表す「モラル(Moral)」と「学」を表す「ロジー(Log)」からなる学問名を羅針盤として、皆様と共にこの大局を乗り切ってください。言うまでもありませんが、モラロジー研究所(四月よりモラロジー道徳教育財団)は宗教団体ではありません。勿論、政治に偏るようは偏頗なものではないのです。

◎地球市民として、地球を丸ごと考え、人間の「慢心」や国々や民族それぞれ家族の「分断」を、日本人が持ち続けている「結束力」を再生することにより、難局を乗り越えるためのお役に立ちたいと願っております。共に頑張りましょう!